

# 北東アジア環境パートナーシップとやま宣言

## - 北東アジア環境パートナーズフォーラム in とやま -

2007年12月4日に日本国富山県で開催された「北東アジア環境パートナーズフォーラム in とやま」において、我々、北東アジア地域の経済界、学界及び地方自治体からの会議参加者は、次の認識のもと、地域レベルで経済界、学界及び地方自治体が環境パートナーシップを強化し、北東アジア地域の環境保全に連携協力して取り組んでいくことを宣言する。

### 1 共通認識

我々は、以下のことを共通認識として確認した。

- (1) 北東アジア地域には気候や地形などの自然的条件、文化や習慣などの社会的条件が異なる様々な地域が存在しているが、我々の暮らしは環境からの恩恵に支えられており、この北東アジア地域の豊かな環境資源は我々の共有財産であるとともに、この財産を将来の世代に引き継ぐことは我々の責務である。
- (2) しかしながら、北東アジア地域では、急速な経済成長や人口の増加が進み、人々の活動による温室効果ガスの排出などの環境負荷は、地方自治体の範囲にとどまらず、国境を越えて影響を及ぼし、共有財産である環境を脅かし始めている。
- (3) 北東アジア地域の豊かな環境資源を将来の世代に引き継ぐためには、国境を越えて、様々な立場の人々が環境保全の重要性を理解し、互いに手を携えて行動していくことが重要である。
- (4) そのためには、国レベルはもちろんのこと、地域レベルでも環境パートナーシップを強化し、経済界、学界及び地方自治体が連携協力して環境保全の取組みを進めていく必要がある。
- (5) その第一歩として、我々は環境の現状を的確に把握するための広域的なモニタリング体制の構築、地球温暖化対策を始め環境負荷を低減する技術情報の共有、環境保全に関する諸課題の解決に向けた国際環境協力を担う人材の育成に取り組むこととする。

### 2 個別的事項

我々は、上記の共通認識に基づき、自らが参加し得る範囲において、次の取組みを進める。

- (1) 広域的な環境モニタリング体制及びネットワークの構築
  - a 黄砂については、「北東アジアグリーンネットワーク構想」などの対策を検討するため広域的な挙動を解明することが必要であり、地域レベルの新たな取組みである「黄砂の視程調査」を経済界、学界及び地方自治体が連携して実施する。
  - b 大学などの研究機関においては、環境の状況を的確に把握し、海洋生物や森林などの環境資源の合理的な利用を始め環境負荷の低減に必要な知見を収集するため、連携協力してバイオアッセイやリモートセンシングなどの新たな環境モニタリング手法の開発が進められており、今後も開発と研究を一層推進するとともに、これらの研究成果やモニタリング技術に関する情報交換を促進する。
  - c 漂着ごみについては、多くの地方自治体が参加する「海辺の漂着物調査」が実施されており、今後も調査を継続する。
- (2) 環境保全のための技術情報の共有
  - a 環境保全をテーマとした経済界、学界及び地方自治体の幅広い主体が参加する国際フォーラムについては、ロシア沿海地方で「国境のない自然」が、ロシアハバロフスク地方で「極東国際経済フォーラム」が予定されており、このような会議への参加などを通じて、地球温暖化対策を始め環境保全のための技術を北東アジア地域に普及させるための具体的な方策や課題などに関して、今後とも、経済界、学界及び地方自治体が意見を交換していく。
  - b 企業や大学などの研究機関においては、地球温暖化対策を始め環境保全のための技術開発が行われており、今後も関係機関が連携協力して開発と研究を一層推進するとともに、環境保全を進める上で効果的な技術を普及する。
- (3) 国際環境協力を担う人材の育成
  - a 北東アジアの各地域における環境保全の取組みを体験し、広い視野で環境保全に関する諸課題の解決策を検討する能力を養成することを目的とした「北東アジア地域環境体験プログラム」については、2008年に韓国忠清南道で実施されるのに続き、中国、ロシア、日本で順次開催されるが、このプログラムが大きな成果を得られるよう経済界、学界及び地方自治体が協力して推進する。
  - b 大学などの教育機関や地方自治体などにおいては、国際環境協力を担う人材を育成するため、環境保全に関するシンポジウムの開催や研修、人材の相互交流などが繰り返し行われており、今後もこのような取組みを拡大する。

我々は、「北東アジア環境パートナーズフォーラム in とやま」の開催を契機として、北東アジア地域の環境保全に向けたパートナーシップの強化に大きな一歩を踏み出した。

こうした北東アジア地域の先駆的な取組みの輪が世界中に広がり、地球上のすべての人々が地球環境と調和しながら健康で豊かな暮らしを送り続けていくことを期待する。

2007年12月4日

「北東アジア環境パートナーズフォーラム in とやま」会議参加者一同